

# ささめごと

花き装飾コース

## 1. はじめに

国際園芸アカデミーに入学した当時は、正直、自分のやりたいことが定まっておらず、花や緑に関することあまり興味がなかった。昨年行った国内視察研修で北海道の花屋を周った時に花に関わる仕事に憧れた。大変な仕事なのに笑顔で花を届けたり、作品を作って展示し、見た方々を魅了させたりすることに感動した。そして、いつか自分もお店を開き、沢山の人々を感動させたいと思った。

せっかく花屋を開くなら、他のお店と差別化をはかりオリジナルの世界観を大切にしたいとお店を開きたいと考えた。また、イメージを花束にする技術力や想像力は必要不可欠なので、卒業制作では、具体的に世界観を伝えるため作品ごとにオリジナルの物語を書き下ろし、物語に対しての花束制作ができるようになるろうと考えた。そして多くのことでありふれたこの世の中でも自分だけのオリジナルが表現できるようになることを目標として、六作品を「ささめごと」としてまとめることにした。

「ささめごと」とは、小声で密かにする話のこと。＝私語。私的には、単に私語ではなく「ささめごと」には、人に言えないような悩みや心の中に閉じ込めている感情をさらけ出したいが、大声で叫んだり人に言いふらしたりするようなことでは無いため、独り言よりも小さな声で見知らぬ人にも届いて欲しいという思いを込めた。

## 2. 制作作品

- (1)「雨上がりのシャンデリア」
- (2)「ココアシガレットを啜った日」
- (3)「白昼夢の心地よさ」
- (4)「エルの休暇」



(1) 「雨上がりのシャンデリア」



(2) 「ココアシガレットを啜えた日」



(3) 「白昼夢の心地よさ」



(4) 「エルの休暇」

### 3. おわりに

制作では納得のいく花束が制作出来るまで、40~50回組み直す事もあった。自分のイメージを納得する花束にするまで時間がかかったのは、色や花の組合せ、立体感、花のベストポジションを見つけるのに苦労したからである。花材選びの段階から技術力が無いことを改めて実感した。しかし、五個目の作品の「雨上がりのシャンデリア」だけは一回目から指導教員から合格を貰うことができた。何個も制作することで、技術が向上したと思ったが、技術安定はまだまだ未熟だと思う。繰り返すことの大切さを知ったので今後も練習を疎かにしない様にしたい。

具体的に世界観を伝えるためオリジナルの物語を書き下ろした。物語を書くのは初めてで伝えたいことは胸の中にたくさんあるのに言葉にできないもどかしさが悩ましく、悩んで悩んで、考えて考えて、冬休み中頭から離れずノイローゼになりそうだった。

制作期間の後半で体調を崩してしまい、一週間誰とも口を開けない状態が続いてしまった。装飾ゼミの仲間や先生達に心配や迷惑をかけてしまった。働き出したら、体調管理には気を付けたいと思う。

言語で表現することやコミュニケーションが苦手なので、今回表現力を身につけられたと思った。六つの物語と花束のイメージが合致していることを望みたい。